

梅雨も終盤です。雨と晴れ間がめまぐるしく移り変わり、晴れた時の蒸し暑さに悩まされている人も多いことでしょう。しかし、生きものの世界は活気にあふれています。気温は高いし水分は豊富だし、こんなにすばらしい季節はありません。身近にこんなに豊かな自然があるのも、じつは梅雨があるからかもしれません。

◆カイコを育てたことはありますか？

さて、今回は雨とあまり関係のない話題、というより、雨でも観察できる内容です。みなさんは、カイコという昆虫を育てたことがありますか？

カイコを正確に言うと、カイコガという蛾のなかまの幼虫です。かつてこの虫のつくる繭から絹糸をつくっていたのが養蚕という農業で、江戸時代から昭和にかけての相模原でも盛んに行われていました。今、育てた経験のある方は、子どもの頃、家でまだ養蚕をやっていたという方が、小学校3年生くらいのときに、学習教材として学校で育てたかのどちらかだと思います。



ふ化したばかりのカイコ（毛蚕）

◆カイコの目はどこにあるの？

カイコはかわいい虫です。もりもりとクワの葉を食べてどんどん大きくなります。ふ化して1カ月とかからずに4回脱皮して、誰に教えられるわけでもなく繭をつくりはじめます。そんな姿を見ると、虫がきれい、蛾なんてもってのほか、イモムシなんて見たくもない、という人でも、いつの間にかカイコが大好きになってしまうという不思議な虫です。

さて、そんなカイコですが、じっくり冷静に見てみると、体のつくりについては結構誤解があるようです。特に、目です。カイコをモデルにした怪獣、モスラの目の位置に惑わされて、つい一番太い部分の目立つ黒いところと思ってしまうのですが、これはただの模様です。そもそもこの部分は胸部です。頭は先の小さな堅いところで、その側面に小さな目が6つあります。むしめがねでよく見てみましょう。



カイコの目はどれでしょう？

◆野生にいる、カイコに近い蛾のなかまークワコ

カイコは中国で4千年以上、日本でも2千年以上の飼育の歴史をもつといわれています。その間にさまざまな改良が加えられ、特に明治以降、日本は世界的にもカイコの研究の最先端を進んでいました。さて、野生にも、カイコにとっても近いなかまの蛾がいます。これをクワコと言います。6月頃、少し古い大きなクワの木をよくさがすと、たいてい見つけられます。カイコに残る野生の痕跡を見つけることもできるので、ぜひじっくり観察してみてください。



クワコの3齢幼虫 何に見えるかな？

次回のお知らせ

ミニ観察会：8月10日（金）11時から
新聞 No. 17 も観察会にあわせて発行します。